



認定NPO法人
ヒマラヤ保全協会

IHC-JAPAN: The Institute for
Himalayan Conservation Japan

Shangri-la


シャングリラ



ヒマラヤ保全協会 2018年度総会

IHC新規プロジェクトおよび活動地の視察報告
収入向上事業、持続的な自立運営を達成！



100円でヒマラヤに1本の  を植えよう!

One coin One tree on Himalayan, tomorrow will be in your hands.

IHC新規プロジェクトおよび活動地の視察報告 2018年度1次隊

IHCの植林事業には、昨年より新しくレスパル村での活動が開始されました。また、これまでの事業地バランジャ村では、新たにキウイ畑の育成プロジェクトが開始され

ています。モンスーンの雨季に当たる時期でしたが、6月14日～30日までの期間、新規プロジェクトを見据えた視察に行ってきましたのでご報告いたします。

1. バランジャ村のキウイ・プロジェクト

バランジャでは、ドラカより仕入れたキウイの苗により、独自のキウイ畑育成プロジェクトが進行しています。現在は57株のキウイ苗が試験区で元気に育っています（図1）。キウイ畑の栽培範囲はまだ0.18haと小規模ですが、おもにIHC-Nのチトラさんとルケシュさんの手によって、試行錯誤しながら育てられています（図2）。キウイ栽培での課題は、良質なキウイ棚を形成するための鉄の支柱、ワイヤー、コンクリでの施工などの費用が当面の課題となっています（図3）。バランジャ村には、自分でハイワード種を植えたキウイ畑もあり、かなり放置された状態ですが、毎年11月頃にはそれなりの収量があるとのことでした。IHCキウイ畑は本年4月に植えたばかりの小さな苗畑です。バランジャの試験区で成果が上げれば、村の内外で関心が高まり、キウイ収穫による収益事業が地域におおきく貢献できるものと思います。



図1



図2



図3

2. レスパル村の植林事業



図4a

レスパル村では2016年より新しくナーサリーが設立され、植林活動が開始されました（図4）。この地域は急傾斜への植林が必要なことから、パツラマツの需要が高い

とされています。また良質な飼料木となるシルムー（オガタマノキの一種）にも大きな期待が寄せられています。植林活動は例年6月～7月にかけて実施され、村議会で植林日を取り決めて村に周知し、村人が参加する形式となっています。昨年は➤



図4b

▼第1次植林区として、ナーサリー南側の傾斜面約1.13haに植林が実施されました（図5）。

レスパル村は2区画に分かれており、155世帯（人口約900人前後）が暮らすこぢん

まりとした美しい村並みが特徴です。この場所はシーカ、パウダル、ゴレパニなどに至るアンナプルナ南部トレッキングルート上に位置しており、IHCの事業地のなかで比較的外国人トレッカーや訪問者が訪れる場所となっています。村内には小さなホテ



図5

ルとホームステイできるゲストハウスもあります。またサリジャ村同様に、女性たちによるアロ（ヒマラヤイラクサ）の機織り工房も設けられています。今後IHCの活動を普及する意味でも、重要な場所となると考えられます。

3. MESトレッキングルートの開拓

今回の訪問の目的の一つに、MES (Mountain Ecology School)でのトレッキング開催に向けたルート開拓があります。まずベニからナンギまでジープで移動し、その後



図6

ナンギ⇒モハレ・ダンダ⇒サリジャ⇒レスパルと3日間かけて歩いサリジャ⇒レスパルと3日間かけて歩いてみました。まず、ナンギはかつてのIHCの事業地であり、チトラさんはこの隣村、ルケシュさんはベニの学校で学んだことから、IHCとはとても深いつながりのある場所です。かつてIHCが立ち上げたロクタ（ネパールペーパープラント）による紙すき工房は現在、村にハンドオーバーされて独自に運営がなされています（図6）。

翌日はナンギからモハレ・ダンダ(3,300m)まで約1,000mの高度をおよそ7時間かけて走破しました。モハレ・ダンダはダウラギリ、マチャプチャーレ、アンナプルナが一気に一望できるトレッキングの中



図7

継地で、ナンギ村が運営するコミュニティ・ロッジがあります（図7）。しかし雨季で天候に恵まれず、また山道では多数の吸血性のヤマビルが靴やズボンの内側まで這い上がってきてしまい、けっして楽しいトレッキングとは行きませんでした。山頂は翌朝までびっしりと濃霧に覆われ、けっきよく勇壮な峰々を拝むことはできませんでした。

翌日は4時間半かけてサリジャへの山道を下りました。レスパル村もサリジャからは4時間ほどの行程でした。おそらくベニ～サリジャ～レスパルの3村をめぐることで、IHCの事業の過去・現在・未来を体感できるのではないかと考えています。

現 | 地 | 事 | 業

理事
戸田 裕子

女性の収入向上事業は 持続的な自立運営という目標を達成しました！

2008年にヒマラヤのダウラギリ地方の懐に入り山に生まれ、山に育った女性たちと出会って10年が経ちました。幼い子供でもおばあちゃまでもこちらが現地語を話すのを知るとたちまち表情がぼあっと笑顔になって会話が進むと一瞬ですべてが打ち解け合い、肩を抱いたり手をつないで離れない人と人の温かいつながりがどうやらこの環境から生まれているとわかるまでかなりの月日がかかりましたが、現金というものが無いのに人々の瞳の内側から放たれる光に強烈に引き込まれました。朝霧の中に太陽を拝み、朝陽に艶やかに光る洗い上がりの米や摘みたての青菜を美味しく煮炊きする台所、狭い1畳半ばかりの囲炉裏の近くに大人5、6人がきゅうきゅうとくつつきながら頂く食事。壁の外では、鶏やヤギが走る音が聞こえてくるしや、こっちもそろそろ待ってるよお〜っと水牛が鼻を鳴らす、そんな生活に出会って、私は次第に都会ではもう触れることのできないこうした山岳部ののどかな風景がいつまでも続いて欲しいと心底思うようになっていました。



ヒマラヤイラクサの繊維から糸を紡ぐトレーニング、機織り機での生地制作

現地に入って住民たちとともに活動していくうちに、彼らが、実は先進諸国の排出する二酸化炭素を吸収する貴重な森林のバイオマスの守り人であることに気づかされることとなりました。

世界で排出される二酸化炭素の吸収は事実上、発展途上国に残されているバイオマス(*1)による吸収に頼る形になっていると言われています。ヒマラヤ保全協会も2017年度の植林本数3万9084本(内訳：ダウラギリ地域ミャグディ郡(ジーン村15,091本、バランジャ村20,157本)、パルバット郡(レスパル村3,836本))を加えこれまでのネパールでの植林数は約123万1千本と森林の緑化再生活動を推進しています。

しかし、持続可能な森林保全には、森林資源を生活の中で利用している住民の理解と自主的な保全活動なしには継続は難しいのです。山岳部では現金収入がほとんどなく、それが原因で人々はどんどん森を降りて、街へ出稼ぎに行く男性たちの「森離れ」が起きていました。山岳部では残された女性たちが、山で農耕と家族の世話と家事炊事に追われ「自由」というものが、ほぼない状態でした。私が初めてこの村に入ってきた時、女性たちが見せてくれた笑顔は、そんな女性の心の中に押し殺した複雑な想いを打ち明けてもいい相手がいた！というものだったのかもしれない。そんなわけで、ヒマラヤ保全協会はこの女性たちの収入活動事業の支援活動に全力を投じました。女性たちが本当に必要としていたものでした。

*1 ネパールの森林は、全土で約596万ha(NFRA:Nepal Forest resource Assessment 2014調査報告)森林バイオマス(aboveground air-dried biomass of trees.)は11.6億トン(平均194.51t/ha),カーボンストック総計は10.5億トン(平均176.95t/ha)。しかし国全体のエネルギーリソースの不足を背景とした森林資源へのエネルギー依存による伐採に加え、2015年のネパール大地震の被災による倒壊家屋再建のため、現地では森林伐採が続いている。



何もなかった土地にサリジャの織物技術推進センターが建てられ、女性たちの技術向上の拠点になりました。



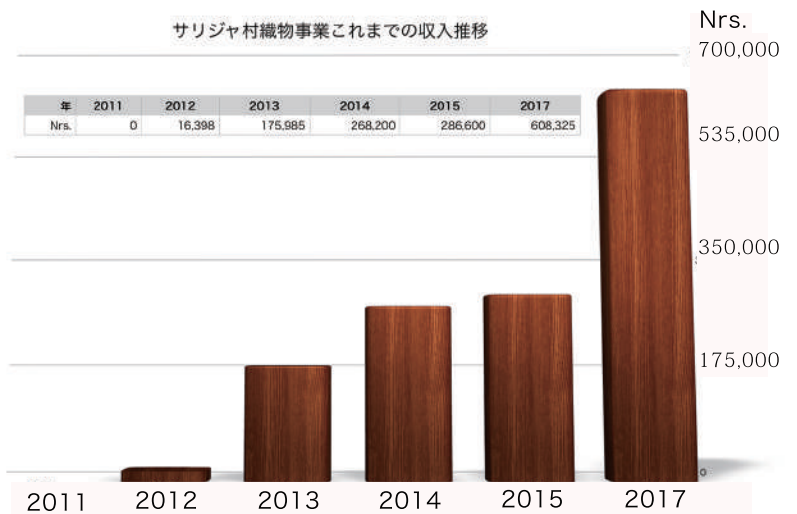
上：ヒマラヤイラクサから繊維を取り出し、生地にします
下：サリジャの生地を利用して、作られたバックたち

プロジェクトの目標は、「現地の女性たちが自分たちの力で運営できる事業」ことでした。

材料は原生している植物(ヒマラヤイラクサ)を選び、繊維として刈り取った分は苗畑で育苗し補充しながら事業を展開していきました。まだ機織り場もなく、ただの野っ原でこれまでの苦労話や希望を聞き取った初めのミーティングでは、本当に上手くいくのか。安易にやってみてダメだったというような無責任な事だけは絶対にはしないと覚悟もしたのを覚えています。

2017年度を終えた時点でこの事業を振り返り、あの初めてのミーティングで語り合った夢が、今現実のものとなったことがわかったので報告します。何もない荒野に機織り場が建ち、初めの2年は技術習得で収入はゼロでした。2011年、初めて販売を開始した年、売り上げは、Nrs.1万6,398-ネパールルピー(白米70NRs/kg)初めて自分の力で得た喜びは女性たちの顔に溢れていました。そして2017年度、6年後の年間の売り上げは、Nrs.60万8,325-ネパールルピーまで上がっていました。この収入によって織物事業の中心だったリーダーは、結婚も果たし家も建てられました(G.Mさん2017年)。女性たちよりも、織る量によって収入に差があるものの、標高2,200mの山岳部に住む一人の女性が年間10万ネパールルピーを得るということは、大きな驚きと話題となっています。ヒマラヤ保全協会は、ハンドオーバー後も順調に運営が続いているこの成果を確認することができた2017年度をもって完全に今後は、現地の女性たちの運営として手放し、見守ることとしました。

サリジャ村織物事業これまでの収入推移



サリジャ近隣の各村の女性リーダーを集めて、織物事業についての会議が開かれました

*ネパールは国内総生産GDPは195億ドル(日本46024億ドル、以上UN data2014.)また2016年度のADB:Asian Development Bankの調査によるとネパール全人口の25.2%が極度の貧困層に属する発展途上国と報告されている。この貧困層のほとんどは、世界最高峰の山の峰を挟む脆弱で生産性の低い山岳部の傾斜地の農村地帯に住んでいて、ネパール国家は、彼らの生活の水準の引き上げを国策の重要課題として挙げている。

国内活動

理事
佐久間雅俊

2018年度総会が行われました！

平成30年6月10日、会員総会が早稲田大学にて開催され、活動報告と活発な意見交換が行われました。

2017年度事業に関するして報告は以下の通りです。

●「生活林」づくり事業

2017年度に育苗・植林した苗は約3万9千本、これまでの積算では123万1千本になります。ダウラギリ地域での植林プロジェクトのうち、サリジャ・ドバ・ベガ・ダグナムの4村は予定通り育苗植林の技術移転が終了して現地住民のみでの活動が行えるようになり、これをもってプロジェクトの目標を達成しました。ただし今後の経過のモニタリングは続けていきます。また、新たに苗畑の建設されたレスパル村でも順調に苗が育っています。

●収入向上事業

サリジャ村にて行われてきた織物事業・紙漉き事業はすでに現地住民が技術を習得し、自身でビジネスを運営できるほどにまでなっています。特に嬉しいニュースとしてはサリジャ村で習得された織物技術が地元の女性達の手によってレスパル村へと伝わり、建設された織物工場が学習の場になっていることが確認できたことです。紙漉き技術や養蜂技術も同様に広まっていることが分かっています。

このようにこれまでの当会の活動が具体的な形で一定の成果を挙げています。

●国内事業

グローバルフェスタ2017、栃木県の鹿沼ぶつつけ祭りなどに出展者として参加し、広報・活動紹介を行いました。また地球市民学習として奈良県吉野にて吉野杉材木問屋見学とトレックツアーを行い、研究・提言活動としては奈良県月ヶ瀬



村に伝わる麻紡ぎと当会でのヒマラヤイラクサ織物収入向上事業との比較研究を始めています。

2018年度事業計画としては以下の通りです。

●「生活林」づくり

新村レスパル他2村で植林事業を継続します。またこれまでの事業地で育ってきた技術者が今後指導者として仲間を作り発展していくことができるよう支援します。

●収入向上事業

新たにキウイ栽培および販売による収入向上支援をダウラギリ地域で始めます。

●国内事業

前年に続きグローバルフェスタ2018出展、自然に親しむイベント開催、また山岳エコロジースクール（スタディツアー）を行います。ネパールのみならず日本国内の農山村が直面している山岳・環境問題に目を向けていきます。

最後に、団体名称が「認定NPO法人ヒマラヤ保全協会」から「特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会」へ変更されることが決定しました。

本年も様々な活動・催しを行ってまいりますので、会員の皆様のサポート・参加をぜひよろしくお願いいたします！

8/25,26 交流山登りイベント 「みんなでパハール」開催予定!

ただいま開催地選定中...
高標高の山岳の雰囲気
味わうなら乗鞍岳
動植物が多く自然ガイド
を楽しむなら尾瀬...
詳細が決まったら
ご連絡します！



9/29,30 グローバルフェスタ2018



出展します！
ボランティア募集

写真で振り返るIHCの活動

ヒマラヤ保全協会は1974年に川喜田二郎氏によって設立された「ヒマラヤ技術協力会（ATCHA）」を前身として、40年以上におよぶネパール・ヒマラヤ地域の絆があります。ここでは、IHC文庫から発掘された秘蔵写真から、かつての活動を振り返ってみたいと思います（※写真の正確な日付はわかりませんので、およその撮影時期です）。



1. 村人の前でおどけて見せる川喜田二郎先生。村人から注がれる暖かなまなざしからも、先生の当時の充実した活動と村人との絆の深さがわかります（1990年秋頃撮影）

2. 美しい棚田の景観（シーカ村？）（1991年1月2日撮影）

3. 資材を運ぶ村人たち。おそらく水道管など水利設備の建設資材と思われます（1990年秋頃撮影）

4. 背いっぱいのカマザサを運ぶ少年。とくにササの若芽はダルに入れてタケノコカレーにして食べます（1990年頃撮影）

5. 水をくむ少女。いまでも昔も、水の供給は高地の山村にとって生活の死活問題でした。現在でも、水汲みは一日の労働の大きな部分を占めています（1990年秋頃撮影）

6. いまでも変わらぬ家庭の台所（1990年12月26日撮影）

事務局 だより

イベント・ボランティア募集情報

8月25日(土)、26日(日)

交流山登りイベント
「みんなでパハール」
今年はまだ場所選定中…。
自然に触れながら、皆さんとの
交流を楽しみに
しています！

詳しくは、下記の
メールアドレスまで



←ぜひぜひご参加下さ〜い♪
←昨年の様子

9月29日(土)、30日(日)

グローバルフェスタ2018に出展します！
活動紹介や物販のお手伝いの
ボランティア募集
しています！
「ネパール手すき紙の
封筒作りワークショップ！」
今年も開催します☆



寄付で支援する

100円で1本の木がヒマラヤに植えられます!!
1口 3,000円から何口でも結構です。
下記の振込み先にご送金ください。

マンスリーサポーターになる

毎月 1,000円 からマンスリーサポーターに
なることができます。マンスリーサポーターの
皆様には、「活動報告書&計画書」年1回)
をお送りします。

会員になる

年会費：個人会員 5,000円・団体会員 30,000円
会員の皆様には、現地の活動が盛りだくさんの
会報『シャングリラ(Shangri-la)』をおとどけします。

- みずほ銀行新宿南口支店
普通2005209
認定NPO法人 ヒマラヤ保全協会
- 郵便振替
00100-0-709154
ヒマラヤ保全協会

※銀行振込みをご利用いただいた場合は、
ご氏名(ふりがな)とご住所を、e-mailに
てご連絡ください。
※国税庁より「認定NPO法人」として認可
されておりますので、皆様からのご寄付
は、税法上の特例措置の対象となります。

100円で1本の木をヒマラヤに植えよう！ ご支援お待ちしております！

シャングリラ第102号 2018年7月25日発行 編集・発行 認定NPO法人 ヒマラヤ保全協会
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田キャンパス9号館 8階 808号室
TEL: 080-3570-8458 e-mail: ihcjpn@ybb.ne.jp ホームページ: <http://www.ihc-japan.org>